

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成25年10月10日(2013.10.10)

【公開番号】特開2012-50535(P2012-50535A)

【公開日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【年通号数】公開・登録公報2012-011

【出願番号】特願2010-194059(P2010-194059)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/12 (2006.01)

A 6 1 B 3/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/12 E

A 6 1 B 3/06 A

【手続補正書】

【提出日】平成25年8月26日(2013.8.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼眼底からの光束を受光素子により受光して眼底像を撮像する眼底撮像光学系と、被検者眼眼底における前記眼底撮像光学系の撮像範囲内において刺激領域と非刺激領域が形成されるように網膜刺激光を照射する刺激光照射光学系と、

前記刺激光照射光学系を制御して前記刺激光を眼底に照射し、前記刺激光の照射後、眼底に光を投光せず、眼底から自発的に発せられる光を前記受光素子を用いて受光し、前記受光素子からの出力信号に基づいて前記刺激光の照射後の眼底像を取得する撮像制御ユニットと、

前記眼底撮像光学系により撮像された眼底像の輝度分布を解析して被検眼の視機能を計測する演算手段と、

を備えることを特徴とする視機能検査装置。

【請求項2】

前記刺激光照射光学系は、前記刺激光として、幾何学模様のパターン又は検査視標を投影することによって、前記眼底撮像光学系の撮像範囲内において刺激領域と非刺激領域が形成されるように前記刺激光を照射することを特徴とする請求項1記載の視機能検査装置。

【請求項3】

前記演算手段は、前記眼底撮像光学系により撮像された眼底像において前記刺激領域の位置情報を取得し、前記刺激領域における相対的な輝度の変化を求める特徴とする請求項1又は2記載の視機能検査装置。

【請求項4】

前記演算手段は、メモリにデータベースとして記憶された正常眼における前記相対的な輝度の変化と、被検眼の前記相対的な輝度の変化と比較することを特徴とする請求項3の視機能検査装置。

【請求項5】

前記刺激光照射光学系は、被検者眼眼底と略共役な位置に配置され、光源から出射された光の進行状態を制御する光制御デバイスを有し、

前記撮影制御ユニットは、前記光制御デバイスを制御して、眼底上に前記刺激光を照射することを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載の視機能検査装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1)

被検眼眼底からの光束を受光素子により受光して眼底像を撮像する眼底撮像光学系と、被検者眼眼底における前記眼底撮像光学系の撮像範囲内において刺激領域と非刺激領域が形成されるように網膜刺激光を照射する刺激光照射光学系と、

前記刺激光照射光学系を制御して前記刺激光を眼底に照射し、前記刺激光の照射後、眼底に光を投光せず、眼底から自発的に発せられる光を前記受光素子を用いて受光し、前記受光素子からの出力信号に基づいて前記刺激光の照射後の眼底像を取得する撮像制御ユニットと、

前記眼底撮像光学系により撮像された眼底像の輝度分布を解析して被検眼の視機能を計測する演算手段と、

を備えることを特徴とする。

(2)

前記刺激光照射光学系は、前記刺激光として、幾何学模様のパターン又は検査視標を投影することによって、前記眼底撮像光学系の撮像範囲内において刺激領域と非刺激領域が形成されるように前記刺激光を照射することを特徴とする(1)記載の視機能検査装置。

(3)

前記演算手段は、前記眼底撮像光学系により撮像された眼底像において前記刺激領域の位置情報を取得し、前記刺激領域における相対的な輝度の変化を求める特徴とする(1)又は(2)記載の視機能検査装置。

(4)

前記演算手段は、メモリにデータベースとして記憶された正常眼における前記相対的な輝度の変化と、被検眼の前記相対的な輝度の変化と比較することを特徴とする(3)の視機能検査装置。

(5)

前記刺激光照射光学系は、被検者眼眼底と略共役な位置に配置され、光源から出射された光の進行状態を制御する光制御デバイスを有し、

前記撮影制御ユニットは、前記光制御デバイスを制御して、眼底上に前記刺激光を照射することを特徴とする(1)～(4)のいずれかに記載の視機能検査装置。